

第3章 施策の内容

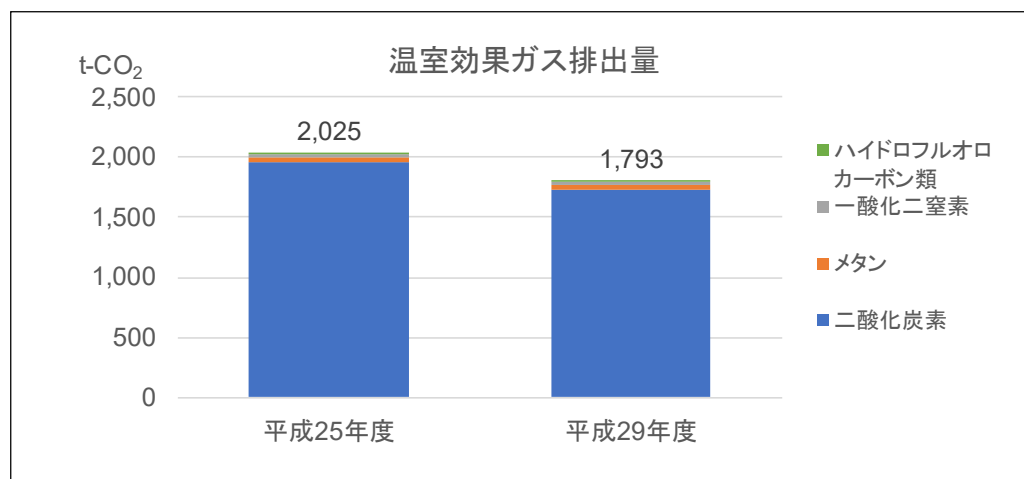
1 環境負荷の少ない持続可能社会の実現

(1) 低炭素社会の実現

【現状と課題】

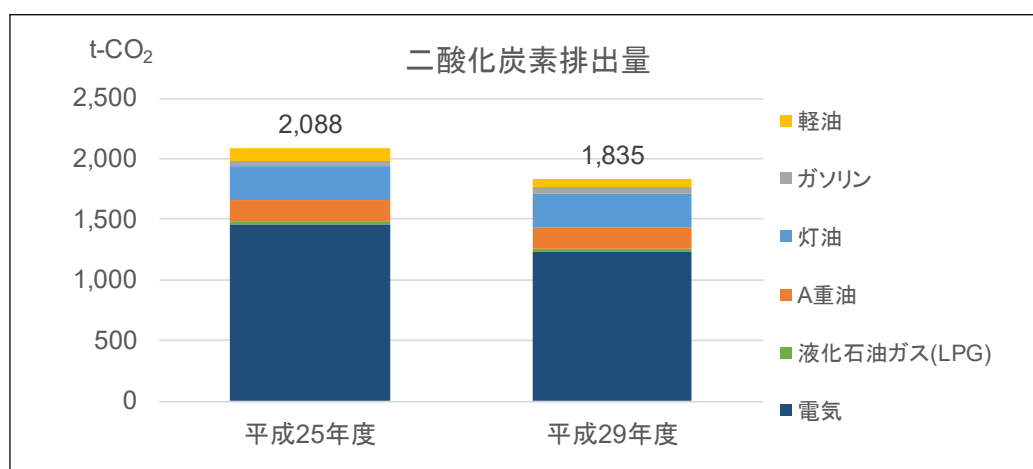
地球温暖化は、世界規模で自然環境に様々な影響をもたらしており、喫緊に取り組むべき課題です。村では平成27年度に第1次中川村地球温暖化対策実行計画（事務事業編）を策定し、平成30年度において計画の見直しを行い、公共施設等における温室効果ガス※1排出量削減に向けた方針と目標を定めました。今後、計画を具体化し、地球温暖化対策の取り組みを積極的に進めていく必要があります。

村の主な公共施設の温室効果ガス排出量の推移（平成25年度・平成29年度）



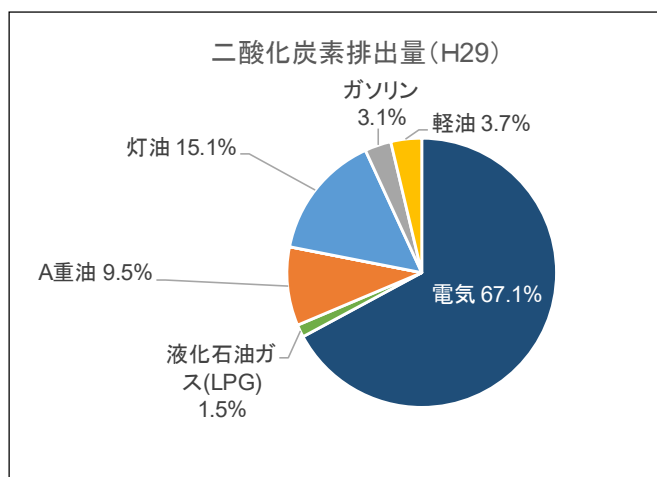
※ 平成25年度の実績値を把握している施設は一部である。そのため、実績不明の施設については、施設の大幅な改修等が無いことを確認したうえで、平成29年度の実績値を平成25年度にも適用している。

村の主な公共施設のCO₂排出量の推移（平成25年度・平成29年度）

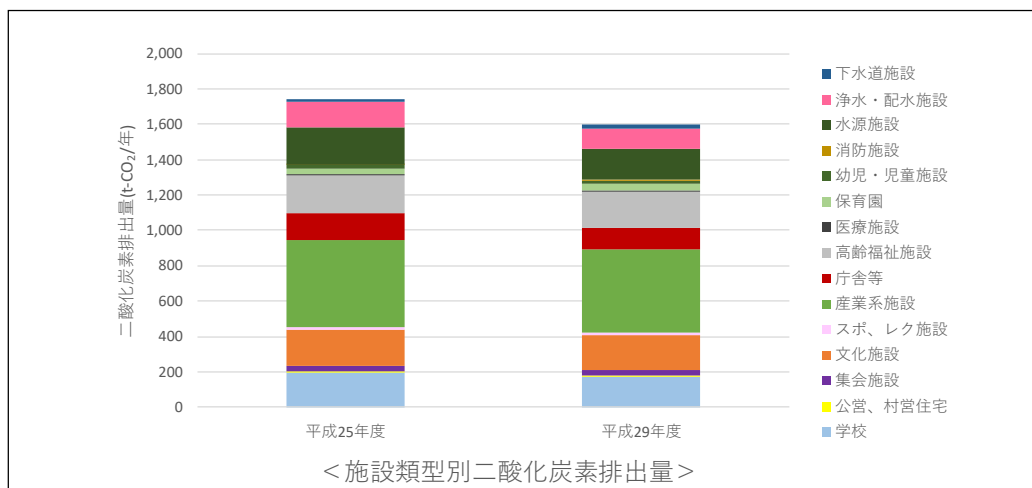


※ 平成25年度の実績値を把握している施設は一部である。そのため、実績不明の施設については、施設の大幅な改修等が無いことを確認したうえで、平成29年度の実績値を平成25年度にも適用している。

CO₂ 排出量のエネルギー種別の構成（平成29年度）

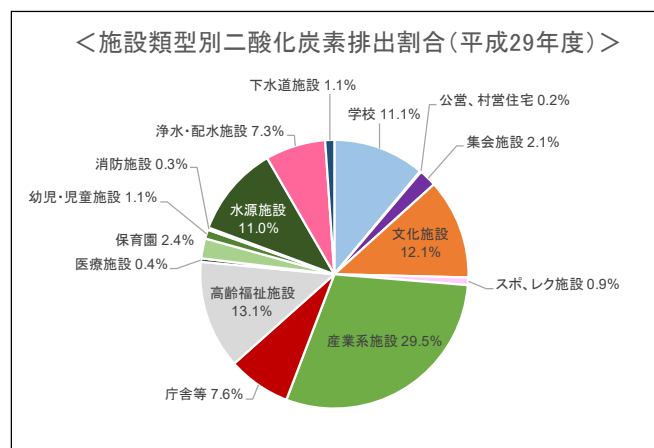


施設類型別の CO₂ 排出量の推移（平成25年度・平成29年度）



※ 平成25年度の実績値を把握している施設は一部である。そのため、実績不明の施設については、施設の大幅な改修等が無いことを確認したうえで、平成29年度の実績値を平成25年度にも適用している。

CO₂ 排出量の施設類型別の構成（平成29年度）



【基本方向】

地球温暖化の進行を抑えつつ生活の質を向上させ、快適な暮らしを維持することのできる村を目指します。

【施策の内容】

- ① 地球に優しい村づくりのために、温室効果ガス排出量削減のための省エネ、省資源対策を総合的に推進します。
 - ・ 第2次中川村地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の具体化
 - ・ 公共施設等におけるCO2削減量の把握
 - ・ 各事業所におけるクールビズ・ウォームビズ※2の実施、啓発、情報提供
- ② 村有施設における設備機器の高効率化、太陽光発電設備、木質バイオマスボイラー等の導入を促進します。
 - ・ 木質バイオマスボイラーの導入
望岳荘（高齢者憩いの家）（令和2年7月稼働）
 - ・ 公共施設の空調・照明設備等更新時における高効率化
役場庁舎空調設備更新（令和2年度）
公共施設照明器具のLED化の促進
 - ・ 災害時避難施設等への太陽光発電設備導入検討
- ③ 地球温暖化対策に向けた再生可能エネルギーの活用の啓発を進めます。
 - ・ 環境、防災等に配慮し地域と調和のとれた太陽光発電事業の推進
ガイドラインの遵守及び関係条例の制定
 - ・ バイオマスエネルギー※3、小規模水力発電等の研究、情報提供
- ④ 家庭や事業所等の環境負荷の少ない機器の使用等、省エネルギーを推進します。
 - ・ 家電製品や機器類の、より環境負荷の少ない高効率機器への選択、更新
 - ・ 各家庭における節電等、省エネルギーへの啓発
 - ・ 電気自動車や低燃費車など環境負荷の低い自動車への転換・普及などの推進及びエコドライブの推進など運転時の環境負荷軽減の啓発
- ⑤ 木質バイオマスエネルギーの利用を促進します。
 - ・ ペレットストーブ導入に対する補助（森のエネルギー推進事業補助金）
 - ・ 木の駅事業※4に対する支援
- ⑥ 植林、間伐等森林施業による森林保護を推進します。
 - ・ 森林整備の推進

【目標指標】

目標指標	現状	目標値 (2024年度)	補足説明
公共施設等におけるCO2排出量	(2013年) 2,154t-CO2	(2023年度) 1,615t-CO2 (△25%)	地球温暖化実行計画 目標値
望岳荘バイオマスボイラー導入 によるCO2削減量	(2019年) 0 t	1 2 9 t (A 重油約 47kl)	第6次総合計画前期 基本計画目標値

関連計画

- ・中川村地球温暖化対策実行計画（事務事業編）

〔用語解説〕

- ※1 温室効果ガス：（P. 3参照）
- ※2 クールビズ・ウォームビズ：平成17年度より環境省が推奨している夏期及び冬期の服装や空調の設定温度、ライフスタイルなどを見直し、地球温暖化対策を推進する取組。政府は、2030年度までに温室効果ガス排出量を26%削減させる目標を達成させるため、クールビズでは、冷房時の室温の目安を28℃、ウォームビズでは、暖房時の室温の目安を20℃として、冷暖房に必要なエネルギー使用量を減らし、温室効果ガス排出量の削減を目的にしている。
- ※3 （木質）バイオマスエネルギー：木材や海藻、家畜の糞など動植物から生まれた有機物から、酸化・燃焼などの化学反応を介して利用されるエネルギー。木材などのバイオマスを燃焼させれば、二酸化炭素が発生するが、バイオマスは植物由来であり、植物の成長過程で同じ量の二酸化炭素を吸収するため、二酸化炭素は増加しません。バイオマスエネルギーは古くから薪・木炭・家畜の糞尿が燃料として使われてきた。現代の利用方法には、大きく分けて直接燃焼、メタン発酵等の生物化学変換、ガス化などの熱化学変換、化学合成による燃料化などがある。
- ※4 木の駅事業：地域にある間伐材や林地残材など活用されていない森林資源を、山林所有者や森林ボランティアが「木の駅」に出荷し、地域内で使用できる「地域通貨」を対価として得ることで、森林の整備と地域経済の活性化、さらに木質バイオマスエネルギーの活用により地球温暖化抑制を目指す取り組み。中川村では、平成30年(2018年)4月に木の駅実行委員会が組織され、地域通貨として里山券（1,000イーラ＝1,000円）を発行し、NPO法人ふるさとづくりやらまいかが薪の製造を請け負い、望岳荘薪ボイラーの燃料などとして供給している。